

第26回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会

林 祐太郎

第26回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会会長
名古屋市立大学教授（小児泌尿器科）

第26回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会を2017年7月5日（水）～7月7日（金）にウインクあいちで開催いたしました。

第1回の学会を1992年に主催されたのが、本学の故大田黒和生教授でした。その後の四半世紀の歴史を刻んだ第26回を、私たちが主催させていただいたことに、運命の糸を感じます。ご参加いただいた約450名の皆様には心より御礼申し上げます。

本学会はメインテーマを「夢の階（きざはし）、明日への棧（かけはし）」としました。学会期間中、スタッフはテーマの中の「夢の階」を背文字とした法被姿で皆様をお迎えしました（写真①）。

口演会場を2つの会場で並列に組み、第1会場ではワークショップを中心に小児泌尿器科の学問を学び、学会賞をめざして日頃の研鑽の成果を競っていただきました。第2会場では医療と医学の狭間の魅力的な世界を感じていただけるような3つのシンポジウムを企画しました。

シンポジウム1は「小児泌尿器科領域での男女共同参画を考える」のタイトルで、泌尿器科医や小児外科医、小児科医に加え、研修医にもシンポジストになってもらい、それぞれの立場から男女共同参画についての思いを語っていただきました（②）。本シンポジウムにタイアップして、日本女医会元会長の津田喬子先生に、日本の医療界における男女共同参画の歩みを「男女共同参画から男女平等参画の時代へ」と銘打って特別講演をしていただきました（③）。温かい目で女性医師を育ててほしいとコメントされる一方、女性医師には権利だけ主張するのではなく義務を平等に果たすようにと指導されました。本学会で初めての男女共同参画のセッションは多くの課題を与えてくれました。

シンポジウム2は「私が描く未来予



①「夢の階」の法被で皆様をお迎えする小児泌尿器科メンバー



② シンポジウム1「小児泌尿器科領域での男女共同参画を考える」のシンポジストと会長の林

想図「明日への棧」のタイトルで、宇宙医学や再生医療、医療ネットワーク、ロボット医療の先にあるAI（人工知能）、さらに若手医師教育法について「それぞれの演者の未来予想図」として、小児泌尿器科医療とのかかわり合いの中で講演していただきました。本シンポジウム終了後に長岡技術科学大学技術科学イノベーション専攻の改田哲也先生に「日本からのイノベーションー人間第一からの卒業ー」という未来の人間社会についての特別講演をしていただきました



③ 特別講演1「男女共同参画から男女平等参画の時代へ」
日本女医会元会長の津田喬子先生



④ 特別講演2「日本からのイノベーションー人間第一からの卒業ー」
改田哲也先生



⑤ シンポジウム3「留学のすゝめ—青年よ、大志を抱け—」：総合討論での会場の様子



⑥ フランスの Alaa El-Ghoneimi 先生が「欧州の小児泌尿器科腹腔鏡手術」を招請講演



⑦ 宮北英司新理事長によるエキスパート・レクチャー「VUR 注入療法のコツと落とし穴」

(④)。スタジオジブリやハリウッド、ヨーロッパで仕事をされてきた改田先生の、サイエンスとは対極にあるヒューマニティの不思議ワールドを、参加者は満喫しました。

シンポジウム3の「留学のすゝめ—青年よ、大志を抱け—」は市川智彦先生(千葉大学)と小島祥敬先生(福島県立医科大学)のお二人に企画・司会をしていただきました。まず、小児泌尿器科領域のレジェンド、谷風三郎先生が御自身の築いてこられた米国留学の歴史と交流を基調講演でお話しして下さいました。そして、5名の先生にご自身の留学生生活を語っていただき、それが現在の医師や研究者としての自分にどのように影響を与えたのかを若い皆さんに伝えていただきました(⑤)。その中でも井川靖彦先生(東京大学)が単身海外留学に旅立つときの不安そうなスライドの顔写真を見て、あの先生でもそうだったのかと勇気づけられた研修医・学生がたくさんいました。

25年の歴史を有する本学会の中興の祖とも言うべき小柳知彦先生には教育講演をお願いしました。尿道下裂手術の開発という輝かしい偉業の奥に隠された苦勞と努力の足跡を、若い世代に伝えおいていただきました。日本泌尿器科学会の藤澤正人理事長がその記念すべき講演の司会の労をお執り下さいました。

私の10年来の友人である Alaa El-Ghoneimi 先生をフランスから招請講演の講師として招きました(⑥)。芸術文化勲章であるレジオンドヌール勲章(シュヴァリエ)の受賞者である彼は、私がお願いした通り名古屋にパリの風を運んで来てくれました。

「アップツーデート・レクチャー」「スペシャル・レクチャー」「エキスパート・レクチャー」では、小児泌尿器科領域でこの疾患、この手術ならこの先生という達人に登場していただき、奥義を開陳していただきました。今回、新しく本学会の理事長に就任された宮北英司先生(東海大学)(⑦)には、御自身が作

成委員長として昨年発刊された「小児 VUR 診療手引き 2016」のアルゴリズムを示しながら「VUR 注入療法のコツと落とし穴」を分かりやすく講演していただきました。

その他、「リサーチ・カンファレンス」「キーポイント・レクチャー」「プレミアム・ジャーナルクラブ」「Q&A トライアル」「カウンターポイント・ディスカッション」には、本学会の保険活動、学術活動、教育活動などで裏方として貢献していただいている中堅医師とともに、学会誌などへの投稿に熱心な若手医師に登壇していただき、研究成果を発表してもらいました。

「フェアウェル・フォーラム」は文字通り最終企画でした。今、自分の専門の道を歩み始めたばかりの若手医師たちが自身のあすなる物語を語ってくれました。発表後にそれぞれのメンターが「夢の階」を上るためのアドバイスをされました(⑧)。

3つの共催セミナーはそれぞれ特徴あるレクチャーでした。特に大家基嗣先生(慶應義塾大学)の「結節



⑧ プロテジェ(若手医師)とメンター(指導医)による「フェアウェル・フォーラム」



9 本学会で初めての「ハンズオン・トレーニング」



10 「小児泌尿器科 歴史館・現代館・未来館」：歴史館を訪問され、若いスタッフと語らう小柳知彦北海道大学名誉教授



性硬化症・小児腎病変」は学会最終日の昼でしたが会場は満席となり、司会の野々村祝夫先生（大阪大学）とともに学会を大変盛り上げて下さいました。

過去 25 回の日本小児泌尿器科学会の歴史にはなかった企画への取り組みを2つ紹介します。一つは学会初日ワークショップ1「腎盂形成術：内視鏡戦国時代」の後にいった「ハンズオン・トレーニング」です。岩村正嗣先生（北里大学）をエグゼクティブ・コメンテーターに迎えて、事前申し込みの 30 名の若手医師が 15 名ほどのインストラクターから腹腔鏡下腎盂形成術の実技指導を受けました（9）。泌尿器科医、小児外科医だけでなく小児科医が実技にチャレンジするというのが3科合同学会である本学会の特徴であると感じました。会場は夜遅くまで和気藹々とした空気に包まれていました。

もう一つは「小児泌尿器科 歴史館・現代館・未来館」の設置です（10）。日本小児泌尿器科学会の 25 年間の

歴史を“思い出の学会”，“招聘外国人講師の顔ぶれ”，“小児泌尿器科術式の歴史”として「歴史館」で展示しました。本学会で作成した停留精巣，水腎症，VUR の診療指針とともに，開放手術から腹腔鏡手術・ロボット手術への変遷の現状は「現代館」で，小児泌尿器科領域における学問，医療，人材育成についての未来展望は「未来館」でお示ししました。中学校の文化祭程度のものでしたが，私たちが手作りで設営した展示館の前で昔を懐かしんで下さるベテランの先生，展示物を撮影してくれる若手医師の姿を見て，企画してよかったと感じました。

最後に，2 年前から一緒に準備作業をしてくれた小児泌尿器研究チームのメンバー，さらに本学腎・泌尿器科学分野教授の安井孝周先生はじめ教室員の皆様，同門の先生方（11）には学会開催をサポートして下さい，この場を借りて心より感謝申し上げます。



11 学会終了時のスタッフ記念撮影：郡 健二郎先生（名古屋市立大学理事長）ご夫妻をお迎えして